

坂越（坂越湾周辺）地区 歴史文化の視点1

14. 古代の海人と秦河勝伝説

【ストーリー】

坂越には、文献で遡り得る 11 世紀よりはるか昔の 5 世紀に、大きな墓＝「古墳」を築いた人々がいた。平地の少ないこの地において、大きな権力を持っていた集団は、漁業や海上交通を生業とする「海人集団」だったであろう。

秦河勝を祭神とする大避神社の神地にある生島古墳は、聖徳太子に仕えた秦河勝の墓であると伝えられるなど、海と人との関係の深さを教えてくれる。

秦河勝は、当時の朝鮮半島から渡ってきた渡来人で、蘇我氏の迫害から逃れてこの島にたどり着き、赤穂の地を開発したという。旧赤穂郡には、この秦河勝を祭神とする神社（大避神社）がかつて約 30 あった。

大避神社の秋祭りは、瀬戸内三大船祭の一つ「坂越の船祭」（国指定重要無形民俗文化財）で、生島内にある御旅所まで、11 艘の船が船団を組んで坂越湾をめぐる。

